

「八木健会長と高浜虚子の滑稽句 1」

2009.04.04 （聞き手 高橋素子）

高橋 本日は先月お願い致しました様に、高浜虚子の滑稽句を会長の滑稽句と比較しながら、より詳しく滑稽句の作り方をご教授戴きたいと思います。

今日はとても楽しみにして参りました。何卒よろしくお願い致します。

会長 芭蕉と比較したり虚子と比較したりすると
八木健が大物に見える・・
それがネライの企画ですね。
あの世に行ってるから文句は言えない。（笑い）
子孫が文句言うかな・・まあいいでしょう。

高橋 それでは、ご納得がいかれたご様子ですので、今回は協会報No.6に会長ご自身で、虚子の滑稽句とその滑稽度を年代順にあげて下さっていますから、それに対応する会長の滑稽句を勝手に選ばせて戴きますね。（笑い）

☆ 蓼虫の父よと鳴きて母もなし

明治32年ホトトギスに載った地口の句ですね。
これに匹敵する会長の地口の滑稽句はいろいろありますが・・あっ！これがいいですね。

★ 台風のアトの一家のお片付け

「台風一過」ですね。台風が通り過ぎた青空の下、飛ばされたバケツや折れた植木を一家総出でわいわいお片づけ・・・うまい地口ですね。比較して虚子の句を詳しくご説明戴けますか？

会長 蓑虫の父よと鳴きて母もなし・・・

蓑虫の鳴き声をチチヨ・・・と聴いて、母もないじゃんかという地口で説明するほどのことじゃないね。地口を説明したらつまらない。それほど深い意味がないからこそ、地口なんで、それを蓑虫は蛾の幼虫で生まれながらにして母の顔を知らない。ましてや父の顔なんか知る筈もないが蓑虫は哀れ・・・なんて言ったところでつまらん解説ですかね。

高橋 成る程、地口は、自分で感じ取るもので、下手に解説しないほうが良いという事ですね。
よく分かります。

では次の句に参りますね。

☆ 鶯や文字も知らずに歌心

鶯の鳴き声に心で感じたままを詠んだ句と思って良いのでしょうか？
では、会長の滑稽句で選ばせて戴くとすれば、やはりこれがいいですね。

★ 芋虫の美人にあらむ緑濃し

人間から見ると確かに色が濃い芋虫の方が、素敵ですが、芋虫の雄の好みはどうでしょうか？芋虫にもいろいろ好みがあるのでは・・・（笑い）

ご説明下さいね？

会長 鶯は歌がうまい・・・ということが前提の機智俳句ですね。
歌がうまいのにあいつは字を知らない。なんて一見、馬鹿にしているわけです。
一芸に秀でてなぜか馬鹿にされ・・・ですね。文字は知らないが・・・しかし、歌はうまいんだ。と鶯の声を逆説的に褒めている句です。

高橋 成る程、面白いですね。
次のは・・・少し艶っぽい句ですね。

☆ 後家が打つ艶な砧に惚れて過ぐ

会長の少し艶っぽい句といえば・・・いろいろありますが・・・

★ 秋田小町コシヒカラせて稲を刈る

あきたこまち、コシヒカリ・・・お米の銘柄ですから「言葉遊び」の句とも言えますね。
流石、上手い滑稽句ですね。

会長 砧は木槌の大きな奴でね。
綿や麻は使っているうちに硬くなってしまふ。だからそれを木槌の化け物みたいな奴で叩くと柔らかくなるのです。後家だからヒマもあってちょいと虚子に色目を使ったんだろうね。
虚子も結構、艶福家だったんでしょう。正直に「惚れて」と書いた。句にするぐらいだから、それほど切実じゃなくてさ。「惚れる」気持ちがまだあることに喜びを感じて句にしたんだろうね。

高橋 ☆老僧の骨刺しに来る藪蚊かな

ふふふ・・間抜けな藪蚊の情景を思い浮かべてつい笑ってしまいますが・・・

会長の滑稽句で言えば

★ 河原の痩せコスモスの咲きにけり

ですね。ご著書によれば、会長も小さい時は余り体力がなくひよわなお子さまであったとか・・だから河原の痩せ地に生えたひよろひよろのコスモスが無事に花を咲かせたことに安心し、喜んで、人一倍温かい目を向けていらしゃるのでですね。
可笑しさの裏に哀しみのある心にじーんと来る素敵な句ですね。

会長 虚子の句は、間抜けな藪蚊をまあ、哀れんでいるんでしょうね。
痩せた骨ばかりの僧と同じぐらい弱っている藪蚊にお気の毒さまと言ってるわけで作者は老僧より藪蚊に味方していると見てよいでしょうね。

高橋 では、次の句に参ります。

☆ ばばばかと書かれし壁の干菜かな

壁に書かれた落書きを消しもせずに菜を干している。考えただけでも面白い情景ですね。
会長の滑稽句で言えば・・あっ！ありました。

★ よくしゃべる後姿の大根干

昔、農家の主婦は農作業をしながら、炊事洗濯育児に至るまで、こまねずみの様に働いたのですね。だから大根を干しながら、振り返って子供に話しかける暇などない。
後姿のまま子供に返事をする。見た目には可笑しいが、そんな働き者の母さんが子供は大好きで自慢なのですね。

・・・たった十七文字で昔の農家の姿をいろいろ想像させてくれるこれもとても良い句ですね。ご説明下さいね。

会長 大根干・・・これはご説明通りの母親像ですね。
虚子の「ばばばか」も実は婆と孫の関係を描いて可笑的。本当に馬鹿だというならそんなことは書かない。叱られて悔しい
 だけど婆ちゃん子なんで婆を本当は大好きという子の顔が見えてくるよね。そういう子がいる・・・風景は村の原風景なんですよ。壁の干菜が風に吹かれて・・・なんて句はつまらんでしょ。

虚子の句の凄さはそこに人間が登場することなんですよ。

高橋 では、次の句は年代順ですからこれですね。

☆ 競べ馬一騎遊びてはじまらず

勝手に遊んでいたい馬の気持ちはとても良くわかります。
これは、一騎が別行動を取る可笑しさですから、師の句で搜してみると・・・あっ！蟻の句がありますね。（笑い）

★ 一匹の蟻蟻の列はなれゆく

いくら働き蟻だからって、管理社会のもとで働きっぱなしだなんて！・・・時には管理化が嫌で、独りいえ一匹になって自分自身のこと、今後の人生いえ蟻生について考えてみたいと思う突然変異の蟻がいても・・・営巣、食べ物の採取、貯蔵は、生殖機能の退化した雌の集団管理のもとでのお仕事ですから・・・。

会長 競べ馬一騎遊びてはじまらず・・・の句についてですが・・・。

平安の昔から続いているあれは加茂神社でしたか神事ですが、雅な儀式としての競べ馬の一頭がとんでもない奴で・・・なかなかはじまらない。雅を裏切る可笑しさですね。

蟻の句はなんとなく 衰しいね 強がりと言って群から離れてゆく人間を思わせる。だから虚子の競べ馬のような明るさがない。蟻の句は裏切りもないしねえ。

高橋 では、次の句は・・・

☆ 外套と帽子と掛けて吾のごと

これに比較して戴ける師の句と言え、

★ マスクただけで変装の気分

一見シュールな風景から脳裏にうかんだ情景と言えるのでしょうか？・・・確かにマスクで顔の半分を隠すだけで、自分では別人に変装した様な気分・・・なりますよね！

会長 ううん・・・もっと良い滑稽句

★ 秋灯や脱ぎしかたちにシャツ置かれ

があるんだ。

これは虚子さんと同じようなものかな。マスクしただけで変装の気分・・・「だけ」で説明しちゃったね。

★ 変装の気分マスクの深々と・・・

にしましょうか。

この頃添削癖がついて仕方ない。

高橋 成る程、添削ではなくて、推敲を重ねられるとぐっと面白くなりましたね。私も見習わなくては・・・
次は美人の定義を裏切る可笑しさという点から

☆ 風邪引きの鼻のつまりし美人かな

これに対応する師の句は、

★ 水漬美人のママを懲しめる

ということになりますね。両者は、よく似た美人のお話ですから、お得意ですね。ご説明は二つとも会長にお任せしましょうね。（笑い）

会長 虚子の句は単なる写生じゃなか。
私のは ママに対するある種の思い・・・が描かれている。
これは創作で実体験じゃないから誤解せんといってくれたまえ。美人のママに気があるんだが振り向いてもくれない。だからザマアミルということなんです。虚子よりかオモロイやんか

高橋 成る程、そういう事ですか？やはり実体験の力って凄いですね。（笑い）

さて冗談はこの位にして、次の句にいいですか？

☆ 息白く喧嘩してをる夫婦かな

これに比較させて戴く会長の句は、

★ 吐く息の白きを牛の舌舐める

非科学的な滑稽句ですね。「息白し」は、冬の12月の季語ですね。寒い牛小屋で牛がさっき食べた餌を反芻しながら、口をもぐもぐ動かしているのでしょうか？

余りにも寒いので牛の吐く息が白く見えて、その白いかたまりをまるで牛の舌が舐めているかの様に見えるということですね。

虚子の夫婦喧嘩の方もご説明戴けますか？

会長 息白く・・・は戸外でしょう。

夫婦喧嘩を外でしますか。とってつけたような情景だね。私が選んでおいて今頃言うのもなんですが、私の牛の舌の句の方がリアリティーありますね、なるほど「白い」を舐めてるんだと。

高橋 成る程、そう言うことですね。

では、次は、擬人化のこの句で・・・

☆ 黒揚羽花魁草にかけり来る

一見何ともない光景ですが、洒落た面白い句ですね。師の擬人化の滑稽句は沢山ありますが、これにしますね。

★ 一匹の蚊にストーカーされてゐる

「ストーカー」という言葉ひとつで蚊を見事に擬人化されてしまいましたね。流石です。
蚊って本当にしつこいですね。
あの小さな体で決してあきらめずどこまでも追ってくるのですから、正に「ストーカー」です。
でも、血を吸うのは雌の蚊ですから、雄の蚊にとっては冤罪と言う事になりますが・・（笑い）
ご説明下さいね。

会長 もっといいのがあるでしょうオレの句には
 まあいいか。
虚子の句は **花魁ににじり寄る**
雄の揚羽を書いたんでしょう。黒揚羽は虚子なんですね。そう考えるととても面白い。
私のストーカーの句は時代をも描いた写生句なんですが・・雄は血を吸わないとすると雌なんだ。
そうそうメス。

高橋 でも、女性のストーカーは聞いたことないから時代の写生句とは・・・でも、会長の願望の句とは言えますよ。（笑い）
あら、またこんな時間になってしまいました。

 では、今日の締め括りはこの句でお願い致しますね。

☆ 一を知って二を知らぬなり卒業す

「学業の真実とはそんなものよ」ということですよ。これに対応する会長の滑稽句と言えば、
あっ！とても面白いのがありましたよ。

★ 落ちたけど東大受けたほどの子よ

うーん！見栄を張っている母親の気持ちも分らないではないけれど・・・

「落ちた！落ちたって！他人のことだと思って嬉しそうに・・・何よ！貴女の子は東大受ける資格もない癖に！」って！・・・（笑い）

その辺に有りそうな情景の面白い句ですね。ご説明下さいね。

会長 虚子の句は 風刺ですね、自身のことなら俳句ですが他人のことなら川柳になります。
私の句の滑稽は東大を受験して落ちたことを威張る庶民の可笑しさです。そこに哀れが潜んでいる滑稽句なんです。

高橋 「客観写生」から「花鳥風月」へと方向転換したと思われていた高浜虚子もこんなに沢山の滑稽俳句を詠んでいるのですね。
でも、今回は、協会報⑥で会長がお取り上げ下さった虚子の滑稽句のまだ半分しか・・・次回もこの調子で続けてご教授下さいね。
今日は、面白く笑っているうちに、本当に良い勉強になりました。

会長 こうして見るとなんですね、あの世に行っても、虚子と滑稽句について対等に語り合うことが出来そうだね。
でも、まだそれは、当分あとの話に願いたいたがね・・・（笑い）